

オンライン

教育シンポジウム in 東京 2024

(第28回)

コロナ禍を経験して社会は大きく変化し、また、将来の予測が困難であることから「VUCA（ブーカの時代）」ともいわれており、国際情勢も極めて不安定な状況が続いています。このような時代であるからこそ、教育の現状と課題を踏まえ、将来を見すえていければと、今回のシンポジウムを企画いたしました。

「総合プログラム」では、現行学習指導要領が折り返し点となることから、どこまで浸透し、成果をあげているのか、何が課題となっているのかを、登壇者がさまざまな視点から解説いたします。さらに、事前に質問を受け付けたうえで、次期学習指導要領への期待についても議論してまいります。

4年ぶりの開催となる「特別支援教育プログラム」では、障害のある児童生徒を含むさまざまな児童生徒が在籍している通常の学級の現状を踏まえ、どのように学級経営や授業づくりを進めていけばよいか、「行政レクチャー」「講演」「対談」を通して先生方と情報を共有し、今後に生かせることを目指しています。

本年もオンデマンド配信となります。多数ご参加くださいますよう、お願い申し上げます。

プログラム

将来を見すえ、教育の課題に向き合う

総合プログラム

現行学習指導要領の成果と課題
～次期改訂を見すえて～

特別支援教育プログラム

通常の学級において
誰一人取り残さない学びを目指して

開催方法

オンデマンドによる動画配信

配信期間

3月11日(月) 12:00 ～ 3月31日(日) 20:00 (配信終了)

参加費

1,000円(税込)

・お支払いについては、クレジットカード、コンビニ払いをご利用いただけます。詳しくは本研究所ホームページにご案内がございますのでご確認ください。お申込み及びお支払いについては、お申込み手続き委託会社のサイトからのみとなります。

※お支払い後はご返金できませんので、予めご了承ください。

・お支払い完了後、お申込み時にご登録いただいたメールアドレスに視聴サイトのURLが送られてきます。

「総合プログラム」「特別支援教育プログラム」の両方を視聴いただけます。

また、配信期間内であれば、何度でも視聴ができます。

お申込み期間

2月5日(月) 10:00 ～ 3月24日(日) 20:00

この日時以前はお申込みできませんのでお気を付けてください。

お申込みのご案内



←お申込みは当研究所のホームページからアクセスをしてください。

※お申込み手続き委託先：イベントレジスト株式会社 <https://eventregist.jp/company/>

主催

公益財団法人 中央教育研究所 (TEL: 03-5390-7488 FAX: 03-5390-7489)

後援

東京都教育委員会、茨城県教育委員会、神奈川県教育委員会、群馬県教育委員会、埼玉県教育委員会、千葉県教育委員会、栃木県教育委員会、長野県教育委員会、新潟県教育委員会、山梨県教育委員会
株式会社 時事通信社

協力

株式会社 学習調査エデュフロント、東京書籍株式会社

中央教育研究所 研究報告のご紹介



ご紹介した研究報告は頒価 1,000 円 (税込) でおわけしていますが、送料は別にご負担いただきます (中央教育研究所 HP〈資料のご注文について〉参照)。また、紙面 PDF を HP 上で公開しています。

刊行物のご紹介



研究報告 No.101
特別支援教育における中高連携に関する研究
令和5年6月発行 (B5判・128頁)

特別支援教育における中高連携は、重要であるといわれながら実態が明らかではありませんでした。本報告はアンケート調査を実施・結果を考察し、児童生徒の切れ目のない発達支援が促される教育や、特別支援教育の充実への貢献を目指しました。



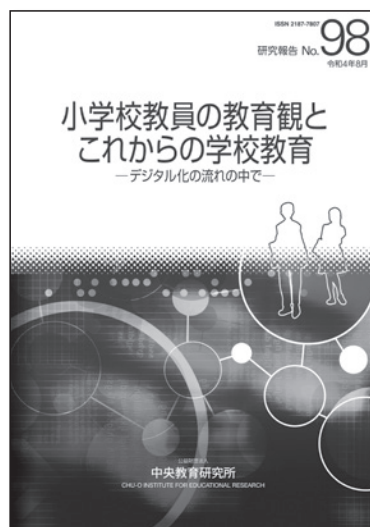
研究報告 No.100
子供の学びが広がる学習者用デジタル教科書
令和5年5月発行 (B5判・108頁)

学習者用デジタル教科書が急速に普及していますが、まだ発展途上の段階であるといえます。今後展開される新しい学びを視野に、デジタル教科書を使用した授業実践を豊富に掲載した研究報告。関連法令などを掲載した巻末付録も充実しています。



研究報告 No.99
自律した学習者を育てる言語教育の探求 12
小中高大を接続することばの教育として
令和5年1月発行 (B5判・112頁)

「教育とは何か」をテーマとした研究報告で、寺崎昌男先生の論考「『教える』ということを考える」を冒頭に掲載。鳥飼玖美子先生が研究主幹として発行してきた「自律した学習者を育てる言語教育の探求」の最終報告 (12 冊目) となります。



研究報告 No.98
小学校教員の教育観とこれからの学校教育
— デジタル化の流れの中で —
令和4年8月発行 (B5判・232頁)

小学校教員を対象に、教科書の使用実態や学習環境に関する実態、英語教育の現状、教員の多忙感等を調査した「教育に関するアンケート」(2021年実施) 結果をもとに、さまざまな観点から考察した論文を掲載した研究報告。巻末に調査結果を掲載。



現行学習指導要領の成果と課題

～ 次期改訂を見すえて ～

<p>開会挨拶</p>	<p>公益財団法人 中央教育研究所 所長 三光 穰</p>
<p>基調講演 (30分)</p>	<p>学習指導と評価の動向 ～地に足のついた改革に向けて～</p> <p>市川 伸一 先生 (東京大学名誉教授、帝京大学中学校・高等学校校長)</p> <p>東京大学文学部卒業。文学博士。埼玉大学、東京工業大学、東京大学を経て2019年3月定年退職し、現職。2001年より、中央教育審議会教育課程部会委員として学習指導要領の改訂に携わる。専門は教育心理学。研究テーマは、認知心理学を基盤にした教育のあり方。学校や地域における個別学習支援、「教えて考えさせる授業」に基づく授業づくり、「学びのポイントラー」による地域教育の活性化、などの教育実践に携わっている。</p> <p>著書に『学ぶ意欲とスキルを育てる』(小学館)、『勉強法の科学ー心理学から学習を探る』(岩波書店)、『学ぶ意欲の心理学』(PHP新書)、『学力低下論争』(ちくま新書)、『「教えて考えさせる授業」を創る アドバンス編』(図書文化社)、『これからの学力と学習支援』(左右社) など。</p> 
<p>基調講演 (30分)</p>	<p>「社会に開かれた教育課程」の動き ～キャリア形成の視点から～</p> <p>藤田 晃之 先生 (筑波大学人間系教授)</p> <p>筑波大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。博士 (教育学)。中央学院大学助教授、筑波大学教育学系助教授、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター総括研究官等を経て、現職。専門はキャリア教育学。著書に『キャリア教育基礎論』(実業之日本社)、『ゼロからはじめる小中一貫キャリア教育』(監修、実業之日本社)、『キャリア教育 フォー ビギナーズ』(実業之日本社)、『日本の産業大辞典』(監修、あかね書房)、『海外の教育改革 [改訂版]』(共著、放送大学教育振興会) など。</p> 
<p>トークセッション (90分)</p>	<p>現行学習指導要領の成果と課題 ～次期改訂を見すえて～</p> <p>コーディネーター 市川 伸一 先生</p> <p>パネラー 松下 佳代 先生、古沢 由紀子 先生、滝淵 正史 先生</p> <p>松下 佳代 先生 (京都大学大学院教育学研究科教授)</p> <p>京都大学大学院教育学研究科博士後期課程学修認定退学。博士 (教育学)。京都大学助手、群馬大学助教授、京都大学高等教育開発推進センター教授等を経て現職。現在、日本カリキュラム学会代表理事、大学教育学会会長、日本学術会議連携会員等を務める。専門は教育方法学、大学教育学。</p> <p>著書に『対話型論証による学びのデザインー学校で身につけてほしいたった一つのこと』(勁草書房)、『ディープ・アクティブラーニング』(編著、勁草書房)、『「新しい能力」は教育を変えるか』(編著、ミネルヴァ書房) など。</p>  <p>古沢 由紀子 先生 (読売新聞東京本社編集委員)</p> <p>早稲田大学政治経済学部政治学科卒業。山形支局、社会部、ロサンゼルス支局長、生活情報部次長、教育部長、論説委員等を経て現職。現在、中央教育審議会委員。</p> <p>単著に『大学サバイバルー再生への選択』(集英社新書)、共著に『教育再生』『大学入試改革』『伝説の校長講話』(いずれも中央公論新社)、『志村ふくみ 染めと織り』(求龍堂) など。</p>  <p>滝淵 正史 先生 (品川区立立会小学校校長)</p> <p>東京都公立学校教員、品川区教育委員会指導主事、東京都公立学校副校長、世田谷区教育委員会統括指導主事・副主事、品川区立第二延山小学校校長を経て、2021年4月から現職。第二延山小学校校長時より、市川伸一先生の提唱する「教えて考えさせる授業」に学校を挙げて取り組んでいる。</p> 

※時間については予定

通常の学級において 誰一人取り残さない学びを目指して

開会挨拶	公益財団法人 中央教育研究所 所長 三光 穰
行政レクチャー (30分)	<p>通常の学級における児童生徒の現状から考える</p> <p>加藤 典子 先生 (文部科学省初等中等教育局 特別支援教育課特別支援教育調査官) 鳥取県の公立小学校で教員を14年間務めた後、鳥取県教育センター指導主事、鳥取県教育委員会特別支援教育課指導主事や鳥取市教育委員会学校教育課主査等を経て、2020年度より現職。</p> 
講演 (30分)	<p>学びを楽しみ、学びから自信を得る</p> <p>海津 亜希子 先生 (明治学院大学心理学部教授) 東京学芸大学で博士(教育学)号を取得後、国立特別支援教育総合研究所研究員等を経て、現職。公認心理師、臨床心理士、特別支援教育士スーパーバイザー。日本LD学会理事長。 著書に『多層指導モデルMIM 読みのアセスメント・指導パッケージ：つまづきのある読みを流暢な読みへ』(Gakken)、『多層指導モデルMIM アセスメントと連動した効果的な「読み」の指導：つまづきのある「読み」を流暢に』(共著、Gakken)、『個別の指導計画作成と評価ハンドブック：学習障害(LD)のある小学生・中学生・高校生を支援する』(Gakken) など。</p> 
対談 (60分)	<p>通常の学級において誰一人取り残さない学びを目指して</p> <p>加藤 典子 先生、海津 亜希子 先生</p>

※時間については予定

特別支援教育プログラムを4年ぶりに開催！

平成17年12月、特別支援教育への関心の高まりをふまえ、中央教育研究所では特別支援教育に関する教育シンポジウムを初めて開催いたしました。以来、継続的に主催してまいりましたが、令和2年の開催以来、コロナ禍のため実施を見合わせていました。4年ぶりの開催にあたり、過去の節目となるシンポジウムの内容をご紹介します。

第3回(平成17年12月)

これからの特別支援教育 —課題と未来を考える—

シンポジウム開催の2日前、中教審が「特別支援教育を推進するための制度の在り方について」を答申。「特別支援教育の“現実的な未来”と一緒に考えていきましょう」という呼びかけがなされたシンポジウムは、時宜を得た内容とご評価いただきました。

第10回(平成21年2月)

子どもの学びと ソーシャルスキルのための支援と体制づくり —新学習指導要領の意義と特別支援教育の理念を踏まえながら—

前年に告示された小中学学習指導要領をふまえ、子どもたちが個性に応じて学びに取り組めるよう、平成20年改訂学習指導要領のねらいと学校でできるソーシャルスキルをはじめとした指導のヒントが報告されました。

第22回(平成30年2月)

通常学級における学習上の「困難さ」と合理的配慮 —新学習指導要領の考え方と支援の手立て—

特別支援教育に関する記述が充実した小中学学習指導要領が前年に告示されたことと、合理的配慮の提供の義務化を踏まえつつ、最新情報と具体例を交えた報告・トークセッションが行われました。

第24回(令和2年2月)

学習指導の工夫とその評価 —子どもの特性を知って指導・支援に生かす—

指導・支援・評価の一体化や、合理的配慮の観点からの評価の工夫、早期に気づき、適切な支援を早期に開始することの重要性などについて、最新の実践例が報告され、情報が共有されました。